

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	開発援助におけるコミュニティインフラ整備過程のエンパワーメント 発現メカニズム
Title(English)	
著者(和文)	西宮宜昭
Author(English)	Noriaki Nishimiya
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第10805号, 授与年月日:2018年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:花岡 伸也,山口 しのぶ,阿部 直也,朝倉 康夫,屋井 鉄雄
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第10805号, Conferred date:2018/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	論文要旨
Type(English)	Summary

(論文博士)

論 文 要 旨 (和文2000字程度及び英文300字程度)

報告番号	乙 第 号	氏 名	西宮 宜昭
<p>(要 旨)</p> <p>近年の開発援助では、教育、保健、人的能力、社会制度等の改善を目的とした社会面の開発が主流化され、経済開発と社会開発が開発援助における両輪となった。社会開発分野では貧困削減が最大の課題であり、そのためには関係者の参加を通じたソーシャルキャピタルの改善と、関係者のエンパワーメント（自信・自尊心・自己統御感を向上させて自主的に選択し、行動する能力をつけ、この能力により自分達が望む社会変革に向けて行動に移すこと）の必要性が、開発援助機関の認識となりつつある。貧困者居住地域や農村地域のコミュニティの開発も、インフラ整備を中心として支援が強化されている。コミュニティ開発プロジェクトでは、大規模・基幹インフラに加え、これらのインフラに接続し、住民の生活に直結するコミュニティインフラ（農道・フィーダー道路、小規模灌漑、給水施設、小規模な教育・保健施設等）の整備が重視され、関係者の参加促進によるエンパワーメントの発現も目指している。これまで、コミュニティ開発プロジェクトの効果は開発援助機関により評価されてきたものの、コミュニティ開発の主たる構成要素であるインフラ整備とエンパワーメントの関係は明らかになっていない。特にインフラ整備過程において、その投入内容・実践方法とエンパワーメント発現の関係は十分に解明されていない。</p> <p>本研究では、国際協力機構のコミュニティ開発プロジェクトの事例から、様々な投入内容・実践方法により実施されているインフラ整備を対象に、その整備過程とエンパワーメント発現の関係を分析し、発現要因やメカニズムを明らかにすること目的とする。</p> <p>まず、事例として選択した59プロジェクトの評価報告書等のレビューやプロジェクト関係者へのインタビューから、プロジェクトに投入された内容、実践方法とエンパワーメント発現の結果を整理した。次に、インフラのみのサブプロジェクト（SP）で構成されているタジキスタンの事例から、インフラ整備過程におけるエンパワーメント発現メカニズムを、既往研究で提案されたメカニズムを修正して構築した。続いて59件の事例から、インフラ以外の投入、インフラ種類別の投入、実践方法・実施環境別にエンパワーメント発現の関係を分析し、発現メカニズムを修正したエンパワーメント発現汎用モデルを構築した。この汎用モデル構築の過程及びモデルを用いた分析の結果、以下の点を明らかにした。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 異なる国・地域や実施環境下においても、参加型で実施されるインフラ整備はエンパワーメントを発現する。 2) インフラと非インフラセクターの投入によるSPの実践は、エンパワーメントを発現させるメカニズムを有する。このメカニズムは、投入段階、改善段階、エンパワーメント発現段階の3段階で構成される。まず投入段階で、世界銀行が提唱する4条件（包摂と参加、情報アクセス、説明責任、地方組織の能力）を重視してSPを実践することにより、改善段階で参加者の能力と能力を発揮 			

させるための制度・ルールが改善される。また、ソーシャルキャピタル改善が、能力と制度・ルール改善をもたらす。次に、これらの改善が認識・態度変容と行動変容を起し、エンパワーメントを発現させる。エンパワーメント発現段階へ進むと認識・態度変容と行動変容の間の相互作用が生じ、さらに発現したエンパワーメントが改善段階の能力や制度・ルール改善を促進する相互作用も生ずる。

3) 投入内容・実践方法の違いによりエンパワーメント発現に差が生じる。インフラ整備の完成性という特徴により、非インフラセクターと比較してインフラセクターがエンパワーメント発現に優位性を持つ。

4) インフラの種類と実践方法の違いによってもエンパワーメント発現に差が生じる。実践方法においては、参加者提案方式によるSP選定方法がよりエンパワーメント発現に有効である。

5) 実施環境として紛争の影響を受けた地域でも、インフラ整備の実践がエンパワーメント発現に有効である。但し、紛争の影響を受けていない地域と比較すると、選択・行動能力改善状況の差異、住民と行政における効果発現状況の差異、ソーシャルキャピタル改善状況の差異がある。インフラ整備の実践過程は、対立し紛争まで発生させた集団の融和に結びつきソーシャルキャピタルを改善する。

6) コミュニティ開発プロジェクトで投入されるセクター毎のエンパワーメント発現差は、開発援助機関により十分に評価されていない。開発援助機関が行っている現状の評価方法の改善点として、インフラセクターと他のセクターを分離してエンパワーメント発現を評価すること、またセクターの違いによる発現差の分析に適した評価指標を設定することが挙げられる。

英文要旨

Social development has played an important role as well as economic development since 1990s. In ODA (Official Development Assistance), donors have increased community development projects to facilitate social development. These projects adopt participatory approach and focus on the stakeholder empowerment as a social development impact. Community development projects are composed of sub projects by several sectors. Infrastructure sector is the most important and largest component. The donors conduct evaluations of the implemented projects, however, the mechanism how infrastructure development process leads to empowerment emerging is still not clear.

This thesis addresses empowerment produced by infrastructure development process focusing on community infrastructure. From the evaluation result of the past community development projects implemented by Japan International Cooperation agency, this thesis clarifies the relation between the community infrastructure development process and emerging empowerment including factors and mechanism. A conceptual model for analysis showing the factors and the mechanism is presented. The mechanism is constructed by three stages: input (intervention) stage, improvement stage of capacity and rule/institutions and emerging empowerment stage indicating the importance of social capital improvement. This thesis stresses the infrastructure sector advantage against other sectors for empowerment and effectiveness of the implementation method which the stakeholders draft project component proposal. Furthermore, it is implied that participation not only in planning but also in

implementation produces stronger impact for empowerment. In peacebuilding context, this thesis also demonstrates the infrastructure development effectiveness for empowerment especially improving social capital in the conflict affected communities.

This thesis raises the issues for continuous research work and community development project evaluation. It is recommended that the donors improve and develop the evaluation method to evaluate specifically infrastructure development process impact and empowerment.

備考：論文要旨は、和文2000字と英文300語を1部ずつ提出するか、もしくは英文800語を1部提出してください。

Note : Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).